

1. 有機フッ素化合物残留実態調査

- ✓ 沖縄県では、嘉手納町内の水道水源においてPFOS等の有機フッ素化合物が検出されていたことを受け、平成28年度に公共用水域等で全県的なPFOS等の調査を行った。
- ✓ 平成29年度以降は他と比較して高いPFOS等が検出された米軍基地周辺の湧水等でモニタリングを実施している。



R 2 年度 (夏季)	54地点 → 36地点超過 (最大3,000ng/L)
(冬季)	59地点 → 34地点超過 (最大2,800ng/L)
R 3 年度 (夏季)	49地点 → 38地点超過 (最大2,300g/L)
(冬季)	47地点 → 33地点超過 (最大1,900ng/L)
R 4 年度 (夏季)	46地点 → 32地点超過 (最大2,100ng/L)

※上記は暫定指針値50ng/Lが設定された令和2年度以降の調査結果

R4年度 夏季調査結果

地域	暫定指針値超過数 / 調査地点数	調査開始
普天間飛行場周辺	11 / 20	H28～
キャンプ瑞慶覧周辺	1 / 1	H28～
嘉手納飛行場周辺	12 / 13	H30～
キャンプマクトリアス周辺	6 / 8	H30～
キャンプハンセン周辺	2 / 4	R2～
合計	32 / 46	

※普天間飛行場周辺は対照として暫定指針値以下の上流側地点の調査も実施。

(暫定指針値超過地点の対応)
「PFOS及びPFOAの対応の手引き」に基づき、市町村等を通して飲用に使用しないように助言等を行っている。

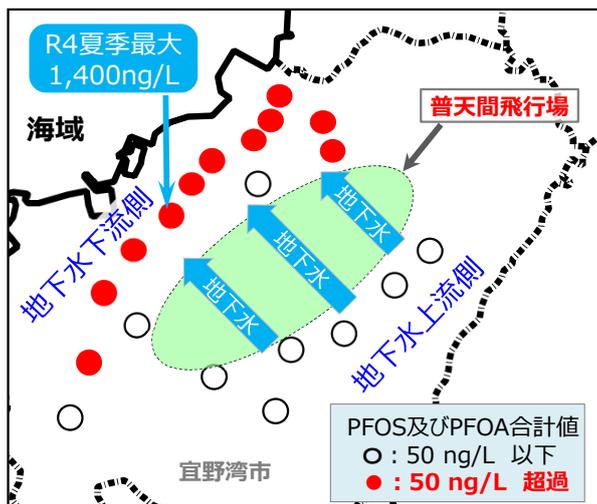
2. 普天間飛行場周辺における汚染源特定に係る調査・検討

- ✓ 普天間飛行場周辺の湧水等は、平成28年度から1,000ng/L前後の有機フッ素化合物が検出され続けているが、同飛行場より上流側では暫定指針値以下であるのに対し、飛行場下流側に位置する湧水等からは、ほとんどの地点で暫定指針値を超過するPFOS等が検出されている。
- ✓ 返還予定であることや施設外への泡消火薬剤流出事故の発生等も踏まえ、早期に汚染源を特定する必要があり、専門家会議を設置するとともに地下水の流れを把握するための調査を実施して汚染源の特定に向けて検討を進めている。

調査内容

基地周辺のボーリングによる地質確認と観測井の設置、湧水などに含まれるPFOS、PFOA、PFHxS、6:2FTS濃度の経時変化等

➤ 普天間飛行場周辺の検出状況(R4夏季調査)



※暫定指針値：50ng/L

【飛行場上流・下流のPFOS等濃度の比較】※R4夏季調査

○PFOS及びPFOA合計値

普天間飛行場(上流側)：定量下限値以下～34 ng/L
 " (下流側)：23 ng/L～1,400 ng/L

○その他

沖縄県では、泡消火薬剤関連物質と考えられている6:2 FTSを独自に調査。飛行場下流側の特定のエリアで検出値が大きく変動するほか、泡消火薬剤流出事故時に一時的に高い濃度が検出されるなど、PFOS/PFOAとも異なる検出状況を示している。